

文化・教育委員会 委員名簿

資料 1

(50音順、敬称略)

委員長	青柳 正規	東京大学名誉教授
委員	浅葉 克己	アートディレクター、桑沢デザイン研究所所長
	池坊 専好	華道家元池坊次期家元
	市川 海老蔵	歌舞伎俳優
	今中 博之	社会福祉法人素王会理事長、 アトリエインカーブクリエイティブディレクター
	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
	EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
	榎本 智司	全日本中学校長会会長
	大橋 明	全国連合小学校長会会長
	小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
	織作 峰子	大阪芸術大学教授
	桂 文枝	落語家
	絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
	コシノジュンコ	デザイナー
	真田 久	筑波大学体育専門学群長
	SHELLY	タレント
	篠田 信子	富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、 C-プランニング・フラノ代表
	杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役、 NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師
	千 宗室	茶道裏千家家元
	田中 稔三	キャノン株式会社代表取締役副社長
	野村 萬斎	狂言師
	深澤 晶久	実践女子大学大学教育研究センター特任教授
	松下 功	東京芸術大学副学長
	宮田 慶子	新国立劇場演劇芸術監督
	村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、 菊乃井主人
	山崎 貴	映画監督



アクション&レガシープラン2016について

アクション&レガシープラン2016策定に向けて

1. 経緯

専門委員会の委員の皆様にご協力いただいております「アクション&レガシープラン」は、1月25日の理事会にて「アクション&レガシープラン2016」の中間報告を策定、公表いたしました。

「アクション&レガシープラン2016」は各専門委員会を経て、7月25日に開催が予定されている組織委員会の理事会にて2016年度の最終版が公表される予定であり、現在検討を進めております。

2. 今後のスケジュール

- ・ 文化・教育委員会 7月14日（本日）
- ・ プラン公表（理事会後） 7月25日

全体概要

1. 基本的な考え方（アクション&レガシープラン）

- ▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。
 - ▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、聖火リレーのように、次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。
- ↓
- ▽ 『アクション&レガシープラン』は、一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにした成果を未来に継承する【レガシー】ためのプラン。

Tokyo 2020 Vision

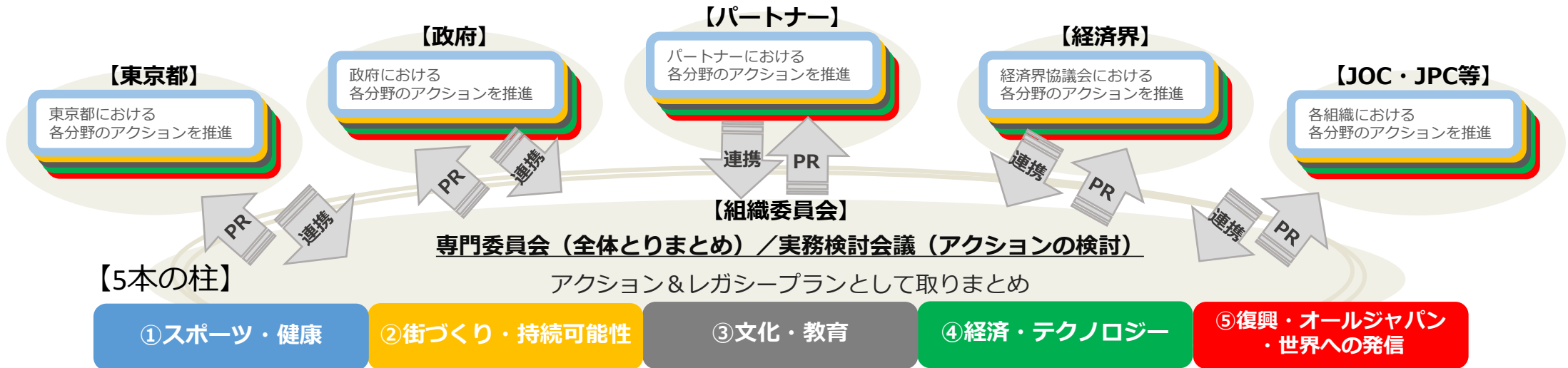
スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

- 「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」
- 「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」
- 「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2. オールジャパンでの取組

- ▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討。
- ▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱で検討。⇒今後、「アクション&レガシープラン2016」を策定し、リオ大会前に公表予定。



全体概要

3. アクション&レガシープラン2016の策定に向けた重要な視点

(1) 『参画』

- 多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただき、盛り上げを図る。
- 企画・イベント等の「認証」の仕組みをリオ大会前までに構築。

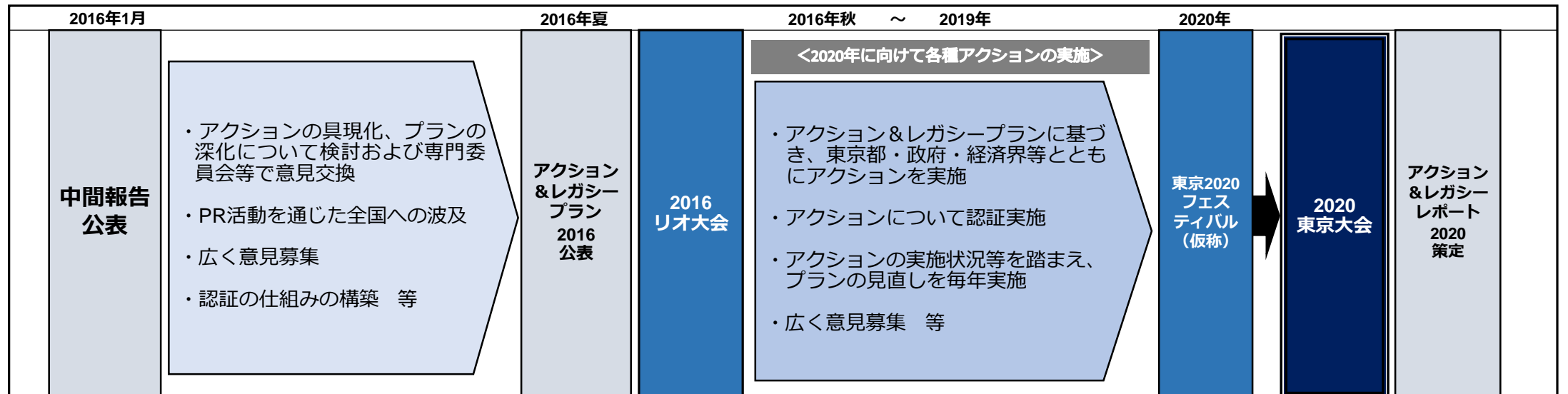
(2) 『パラリンピック』

- 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- 東京は世界で初めて、同一都市で2回目のパラリンピック大会が開催される都市。

(3) 『2018~2022年の間の大規模大会との連携』

- オリンピック・パラリンピック大会（2018年 平昌（韓国）・2020年 東京（日本）・2022年 北京（中国））、日本でのラグビーワールドカップ大会（2019年）、ワールドマスターズゲームズ（2021年）といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

4. 2020年に向けたスケジュール概要



③文化・教育

<文化・教育委員会、青柳 正規 委員長>

基本的な考え方

- 文化・教育の各種取組を通じて、より多くの人々を東京2020大会に巻き込み、大会成功の機運を醸成

残すべきレガシー

文化		教育	
日本文化の再認識と 継承・発展	次世代育成と 新たな文化芸術の創造	オリンピック・パラリンピックや スポーツの価値の理解	多様性に関する理解 (障がい者への理解・国際理解)
日本文化の世界への 発信と国際交流	全国でのあらゆる人の 参加・交流と地域の活性化	主体的・積極的な参画と大学連携 (将来の国際社会や地域社会での活動に、主体的、積極的に参加できる人材の育成)	

文化の祭典としてあらゆる人々が参加する東京2020文化オリンピックを展開
多様な教育メニュー全体をパッケージ化した教育プログラム（愛称：ようい、ドン!）を展開

文化におけるアクション例

- 伝統芸能と最先端技術やポップカルチャーを融合させた新たな芸術表現の創造
- 小・中学校における伝統文化・伝統芸能鑑賞体験授業の充実
- 学生、若手クリエイターを対象として公募による新たな発想を取り入れたプログラムの展開
- 国内外のアーティストを受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業
- アール・ブリュットの普及推進
- 文化芸術の力を活用して「街づくり」や「福祉」「教育」等の課題解決型事業の展開等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

教育におけるアクション例

- オリンピック・パラリンピック教育を積極的に進めていく学校の指定
- オリンピック・パラリンピアン・外国人アスリート等の学校への派遣
- 企業や団体等の提供する教育メニューの教育活動への活用
- 障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充や、特別支援学校の児童・生徒と小・中・高校生との交流を充実
- 1校1国運動のような学校単位での国際交流
- 大会運営ボランティアや大会に関連する活動への参画
- 大学連携の枠組みを通じた取組の推進等

アクション&レガシープラン2016について

1. 中間報告からの主な変更点

2016年1月に公表した中間報告より以下三点の変更を予定

① 第一章の参画、パラリンピック、5大会の連携に関する記述拡充

- ・「参画」と「レガシー」が、5本の柱に共通した理念であることを踏まえ、以下の内容を追記

視点	記載内容
参画	認証対象、付与されるマーク及び今後の展開スケジュール等について記載
パラリンピック	パラリンピックの意義及び東京大会を通じて目指すべき姿等について記載
2020年前後5年間の大規模大会との連携	5大会の概要及び連携の意義等について記載

② 2020年までに想定されるアクション例一覧の更新

- ・ 中間報告に付表として添付したアクション例・マトリクス（一覧表）を更新

③ 2016年度下半期のアクション一覧の作成

- ・ 2016年度下半期に政府、東京都、46道府県、パートナー企業、JOC・JPC等の団体が実施するアクションの一覧表をプランに追加

アクション&レガシープラン2016について

2. アクション&レガシープラン2016策定に向けたこれまでの主な取組

① ステークホルダーや関係自治体等との連携によるPR活動、意見交換の実施

- 2016年1月以降、ステークホルダーや関係団体の協力を得て、PR活動や意見交換を実施
- 2016年4月以降、関係自治体（北海道、札幌市、宮城県、埼玉県、さいたま市、千葉県、千葉市、神奈川県、横浜市、静岡県）を往訪、今後の展開について意見交換

② 政府、47都道府県、関係自治体、パートナー企業等へのアクション調査

- 2016年度下半期に各主体が実施するアクションに関する調査を実施

③ 認証制度の検討

- “オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの促進”と“レガシー創出に向けたアクションの推進”のために、マーク付与等を行う仕組みを検討（6月開催の文化DG・教育DGで概要説明）

3. 2017年度以降の更新

- 今後、アクション&レガシープランは毎年夏を目処に更新。過去約1年間のアクションの実績と、以降約1年間の間に実施される見込のアクションを掲載。
- 東京2020大会終了時点で、ファイナルレポートとして、「アクション&レガシーレポート2020」を策定。



東京2020参画プログラム（仮称）について

※IOC等との調整中につき、今後変更の可能性があります

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

1.アクション&レガシープランと東京2020参画プログラム（仮称）の関係

基本的な考え方

- ▶ アクション&レガシープランでは、東京2020大会に向けた機運醸成や大会を契機としたレガシー創出を呼びかけるというコンセプト等を打ち出している。
- ▶ 東京2020参画プログラム（仮称）は、マークの付与等により、プランの具現化を図るもの。コンセプト等の内容を踏まえ、審査の基準となる要件などを設定。プランで示した目指すべき方向にオールジャパンでのアクションを加速・促進する。

留意事項

- ▶ 認証プログラムはIOC/IPCとのマーケティング等取り決めの元で精査・承認する必要があるため、アクション&レガシープランに掲載のある取組例やアクションが自動的に認証されるわけではない。

アクション&レガシープラン

コンセプト（2016年1月中間報告）

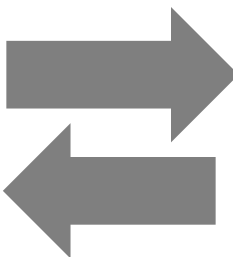
役割

- レガシー創出に向けたコンセプトやアクションの方向性等の提示
- 様々な主体の取組の参考となる事例集的役割

狙い

- 2020年あるいはそれ以降を見据えた取組（構想含む）を幅広く記載し、アクションを例示
- 大会を契機としたレガシー創出

コンセプトを
認証基準・要件に活用



エンゲージメント（参画）
による具現化

東京2020参画プログラム（仮称）

役割

- スポンサーシップに配慮しつつ、マーク付与により、東京2020大会とのつながりを創出
 - プランのコンセプト等に基づく認証基準・要件を提示
- #### 狙い
- オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画の加速・促進
 - アクション&レガシープランの具現化によるレガシー創出

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

2. 東京2020参画プログラム（仮称）とは

■ 背景

東京2020大会組織委員会は、東京2020大会を一過性のイベントとするのではなく、出来るだけ多くの人々が参画し、あらゆる分野で東京2020大会がきっかけとなって社会が変わったと言われるような大会を目指している。



様々なアクションに対して組織委員会からマークを付与する仕組みを構築し、それを梃子に東京2020大会に向けたエンゲージメント（参画）・機運醸成及びレガシー創出を推進。

■ 東京2020参画プログラム（仮称）の目的

① オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画促進

東京2020大会の盛り上げ等に向けて、多くのアクション（イベント・事業等）が実施され、できるだけ多くの方々や団体が主体的に参画できることを推進する。

② レガシー創出に向けたアクションの促進

レガシー創出につながるアクションをオールジャパンで推進するために、コンセプトを共有し一定の基準を満たす取組を組織委員会の関連アクションとして認証し、それをきっかけに社会にポジティブな成果が生まれることを促進する。

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

3. 認証プログラムの対象、実施可能な事項

■ 認証プログラムの対象



- 各ステークホルダーが実施するアクション（イベント・事業等）
- ただし、組織委員会が定める一定の要件を満たすもの（後述）
- 「東京2020公式プログラム（仮称）」「東京2020応援プログラム（仮称）」の2種類の認証区分

■ 認証を受けることで実施可能な事項（案）

- 認証マークの使用（ただし、使用方法については組織委員会の確認が必要）
- 「東京2020公式プログラム（仮称）」にはタイトルに、「東京2020応援プログラム（仮称）」には説明に、「オリンピック・パラリンピック」の文言使用が可能
- 組織委員会が認めたイベント・事業としての実施・PR（例：組織委員会が認める「文化プログラム」としての実施・PR）

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

4. 認証プログラムの体系

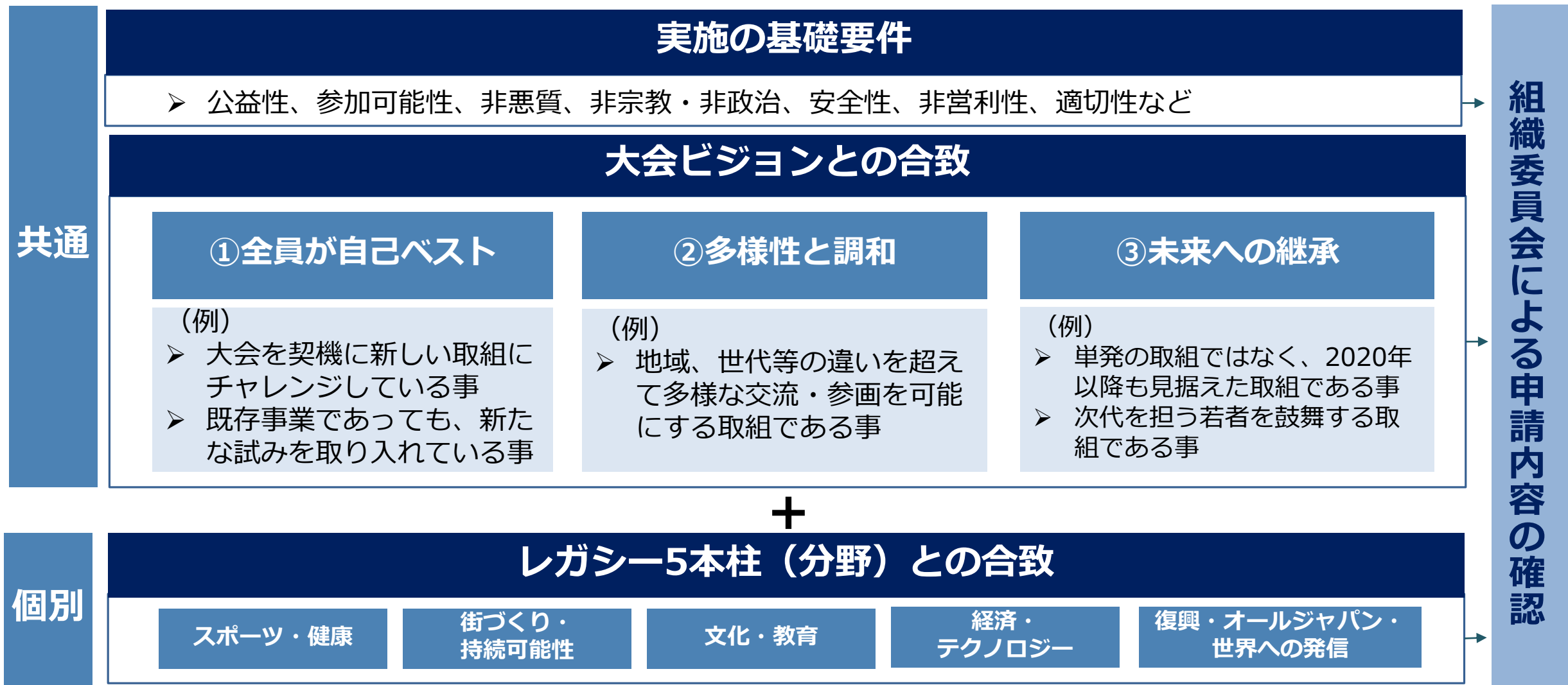
事業名	実施主体（※1）	概要	付与マーク
東京2020公式プログラム （仮称）	開催都市（東京都、都内区市町村）、 国、会場所在地方公共団体、 JOC、JPC、スポンサー企業	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大会ビジョン等の実現に寄与し、東京2020大会の機運醸成やレガシー創出につながる取組を認証 ✓ 公式事業としての位置づけ 	OCOGマーク 例：リオ大会におけるOCOGマーク 
東京2020応援プログラム （仮称）	非営利団体等 （公式認証プログラムの実施主体に該当しない団体）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大会ビジョン等の実現に寄与し、東京2020大会の機運醸成やレガシー創出につながる取組を認証 ✓ アクションの裾野を広げ、多くの人々が参画できることを目指す 	NCマーク 例：リオ大会におけるNCマーク 

※1：主催者に協力する組織は、スポンサーシップとの関係から、大会エンブレムが使える団体（東京都、都内区市町村、政府、会場所在地方公共団体、JOC、JPC、スポンサー企業）のほか、国内競技連盟（NF）、大学、公益法人、その他これらに準じる非営利団体もしくはその他組織委員会が適当と認める団体等であることが必要

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

5. 認証プログラムの対象となる取組

【要件】 実施の基礎要件を満たし、大会ビジョン・アクション&レガシー5本柱に合致する取組



組織委員会による申請内容の確認

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

■実施の基礎要件（案）

- 以下に掲げる要件を全て満たしていること
- また、東京2020大会スポンサーのマーケティングルールを順守すること

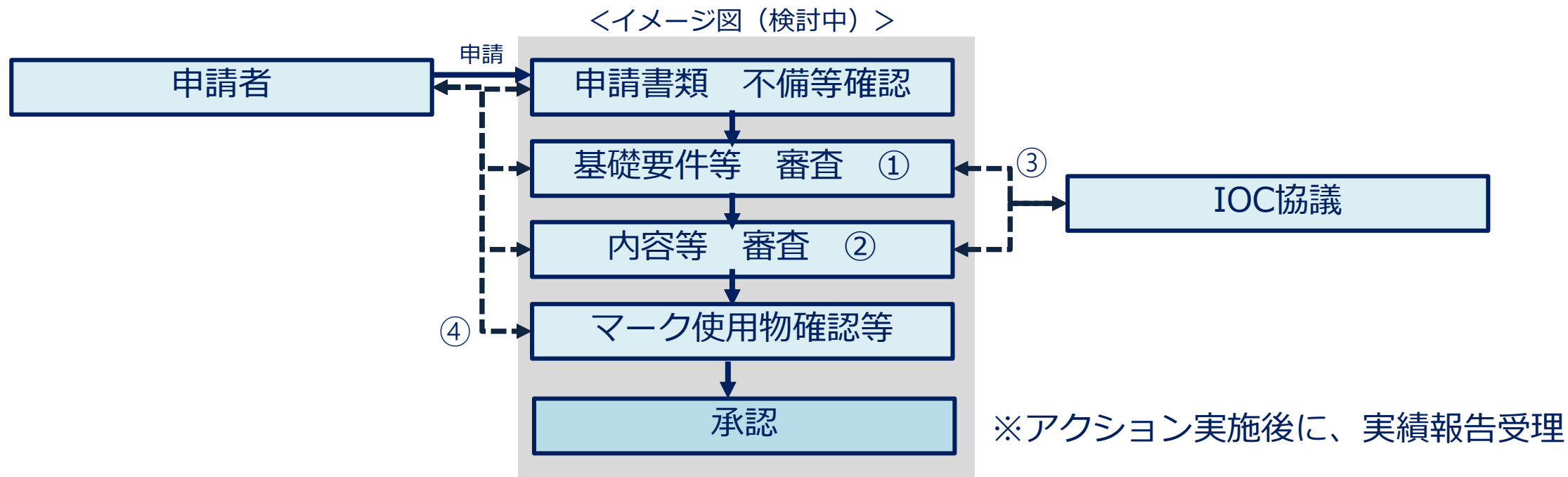
要件	内容
公益性	事業の目的及び内容に公益性があること
参加可能性	事業の対象者が広い範囲にわたること。また、参加料等が無料の事業やボランティアを積極的に活用するなど多様な参加に向けた工夫をしていること
非悪質	事業が公序良俗に反するもの、その他社会的な非難を受ける恐れのないものであること
非宗教・非政治	特定の思想、宗教及び政治的活動に基づいていないこと
安全性	事業の開催にあたって、事故防止、公衆衛生対策等に十分な設備と措置が講ぜられていること
非営利性	営利・宣伝を主たる目的としない事業であること。また、入場料、参加料等を得る事業でも、その目的及び内容に対し社会通念上、適当な額であること
適切性	上記以外にオリンピック・パラリンピック憲章またはオリンピック・パラリンピックの趣旨に照らして不適切と認められる事業内容を含んでいないこと

※非営利団体の場合、地元自治体の後援名義を求めることを検討

東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

6. 審査のプロセス（案）

- 実施の基礎要件及び大会ビジョン、レガシーコンセプト等を実現する事業内容かどうかを総合的に審査する
- 審査を円滑に実施し、また全国のより広範な地域に参画のムーブメントを展開していくために、組織委員会のみならず、関係団体との連携を強化を検討していく



- ① 大会実施主体の要件、実施の基礎要件を満たしているか
- ② レガシーコンセプトに関する基準を満たしているか
- ③ 主催者、内容等について疑義が生じる場合など、必要に応じて協議
- ④ 審査等を踏まえ、申請を差戻す可能性あり

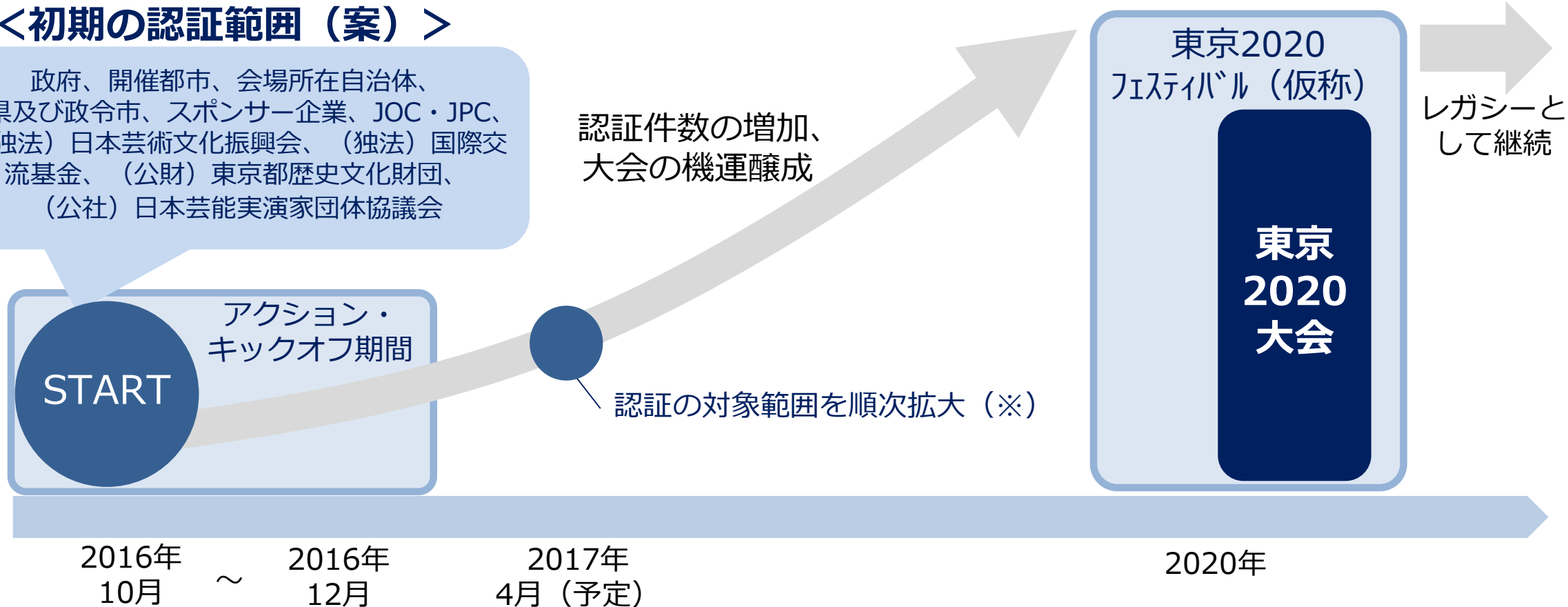
東京2020参画プログラム（仮称）の概要（案）

7. 今後のスケジュール（予定）

2016年 7月25日～ 参画プログラムの公表予定（公表後、適宜申請受付を開始予定）
10月～ 認証（マーク付与）されたアクション開始
(10～12月) 東京2020大会に向けたアクションキックオフ期間として位置づけ

<初期の認証範囲（案）>

政府、開催都市、会場所在自治体、
府県及び政令市、スポンサー企業、JOC・JPC、
(独法) 日本芸術文化振興会、(独法) 国際交
流基金、(公財) 東京都歴史文化財団、
(公社) 日本芸能実演家団体協議会



※認証プログラムの創設についてはIOC との調整が必要となること、また、立ち上げ時には案件毎の審査を丁寧に行う必要があること等を鑑みると、2016年10月のスタート時は、まずは対応可能な範囲でスタートさせ、その後、段階的に対象を広げていく方向で検討

文化オリンピックについて

目標

- ① 文化の祭典として、あらゆる人々が参加できるプログラムを全都道府県において実施し、地域を活性化する
- ② 文化オリンピックを通じて、多くの若者に文化芸術への参加を促進し、創造性を育成する

ビジョン

みんなの輝き、つなげていこう (Unity in Diversity)

- 文化を通じて、未来とつながる、過去とつながる（時間的）、世界とつながる、地域がつながる（空間的）、世代を超えてつながる
- 国・人種・宗教が違ってても、みんながつながり、つながりが広がっていく
- 多様性を理解し、互いに認め合い、内面を豊かにし、広がっていく

名称

「東京2020文化オリンピック」

- リオデジャネイロ大会後に開始
- 東京大会開会前からは、集大成として、「東京2020フェスティバル（仮称）」を開催

2016年10月

2020年5月（予定）

リオ2016大会

東京2020文化オリンピック

東京2020
フェスティバル（仮称）

文化オリンピックのコンセプト

大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

残すべき4つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：日本文化の再認識と継承・発展

コンセプト②：次世代育成と新たな文化芸術の創造

コンセプト③：日本文化の世界への発信と国際交流

コンセプト④：全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

レガシー実現に向けたアクション

- 大会ビジョン及び4つのレガシーの実現に向けて、2020年までの4年間、様々な主体における多様な取組により、文化オリンピックを展開
- 文化の祭典としてあらゆる人々が文化オリンピックに参加し、オールジャパンで盛り上げることで、国内はもとより、世界中の国・地域から訪れる多くの人々に対し、日本の文化の力を発信

認証対象となる取組

【文化芸術性に関する基準】 大会ビジョン及び文化オリンピックのコンセプトを実現する事業内容かどうかを総合的に審査

大会ビジョンに基づくもの

① 全員が自己ベスト（革新性・新規性）

- 大会を契機に新しい取組にチャレンジしている事
- 既存事業であっても、新たな試みを取り入れている事

② 多様性と調和（参画性）

- 人種や地域、障がいの有無を超えて、あらゆる人々が参加・交流する取組である事

③ 未来への継承（レガシー）

- 2020年以降を見据えた東京・日本の発展に寄与する取組である事
- 次代を担う若者を鼓舞する取組である事

文化オリンピックのコンセプトに基づくもの

① 日本文化の再認識と継承・発展

- 日本文化の伝統を正しく伝えるとともに革新的な事業
- 次代を担う若者に対し、日本文化のすばらしさについて理解を促す取組

② 次世代育成と新たな文化芸術の創造

- 野心的・挑戦的・実験的取組であり、前例にない新たな芸術表現
- 若手の芸術家・キュレーター・アートディレクター、学生に参加・活躍の機会を与える取組
- 新作、初上演、初公演

③ 日本文化の世界への発信と国際交流

- オリンピック史に残る大規模かつ創造的なイベント
- 新たな文化や多様な文化が融合・調和した日本の文化の魅力を世界に発信する取組
- 世界中の人々があらゆる人種や宗教を超えて、文化芸術を通じて参加・交流できる事業

④ 全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

- 芸術展示、舞台芸術、音楽を見せるだけでなく、対話プログラムや実践型ワークショップなど、無料で参加できる事業
- 人種、性的指向、障がいなど、多様な背景を持つ人が文化芸術を通じて、参加・交流できる取組
- 地域社会の世代間、地域間を超えて、地域の様々な人々が連携共同し、地域の課題解決に向けた事業など、地域を盛り上げる取組

教育プログラムについて

目標

- ① 全都道府県において、オリンピック・パラリンピック教育を実施
- ② オリンピック・パラリンピック教育を通じて、多くの若者が自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲を持ち、多様性を理解し、豊かな国際感覚を備えるようになっている

ビジョン

みんなの輝き、つなげていこう (Unity in Diversity)

- 様々な体験・経験を積み、失敗を恐れず自らアクションを起こすことで未来が広がっていく
- 国・人種・宗教が違って、みんながつながり、つながりが広がっていく
- 多様性を理解し、互いに認め合い、内面を豊かにし、広がっていく

プログラムの愛称

「ようい、ドン！」 (英語: YO・U・I・DON! (You・I・DON!))

- 日本語では、学校における徒競走のスタートや、何か物事を始めるときに使う言葉
- 大会ビジョンの実現に向けて、次世代を担う子どもや若者がみんなですターを切ってみんなと一緒にやろうという思いを込めている

教育プログラムのコンセプト

大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

残すべき3つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解

コンセプト②：多様性に関する理解

コンセプト③：主体的・積極的な参画と大学連携

レガシー実現に向けたアクション

- 将来の我が国を支える若者が優れた国際感覚を持ち、障がいや人種等にとらわれない、社会の多様性を理解する人材に成長できるよう、オリンピック・パラリンピックの価値を学習する機会を創出していく。
- 多様な教育メニューをパッケージ化して教育プログラムとして全国に展開していく。

認証対象となる取組

【教育に関する基準】 大会ビジョン及び教育プログラムのコンセプトを実現する事業内容かどうかを総合的に審査

大会ビジョンに基づくもの

① 全員が自己ベスト（革新性・新規性）

- これまでにない新しい取組にチャレンジしている
- 子供たちが新しい経験を得ることができる取組である

② 多様性と調和（参画性）

- 人種や地域、世代等を超えた交流がある
- 国際交流や障がい者への理解を促進する取組がある

③ 未来への継承（レガシー）

- 東京2020大会で築いたつながりや取組を大会後も継続できる仕組みである
- 子供たちが将来に向かって様々なチャレンジを試みる意欲を鼓舞する取組である

教育プログラムのコンセプトに基づくもの

① オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解

- 次代を担う若者に対し、日本文化のすばらしさについて理解を促す取組

② 多様性への理解

- 障がい、人種、言語、性的指向や宗教、政治など様々な考えを尊重することを通じて、我が国における共生社会の実現を担う人材が育っている
- 海外の文化や社会に関する理解を通じて、日本人としての自覚と誇りを持って、国際社会で活躍する人材が育っている

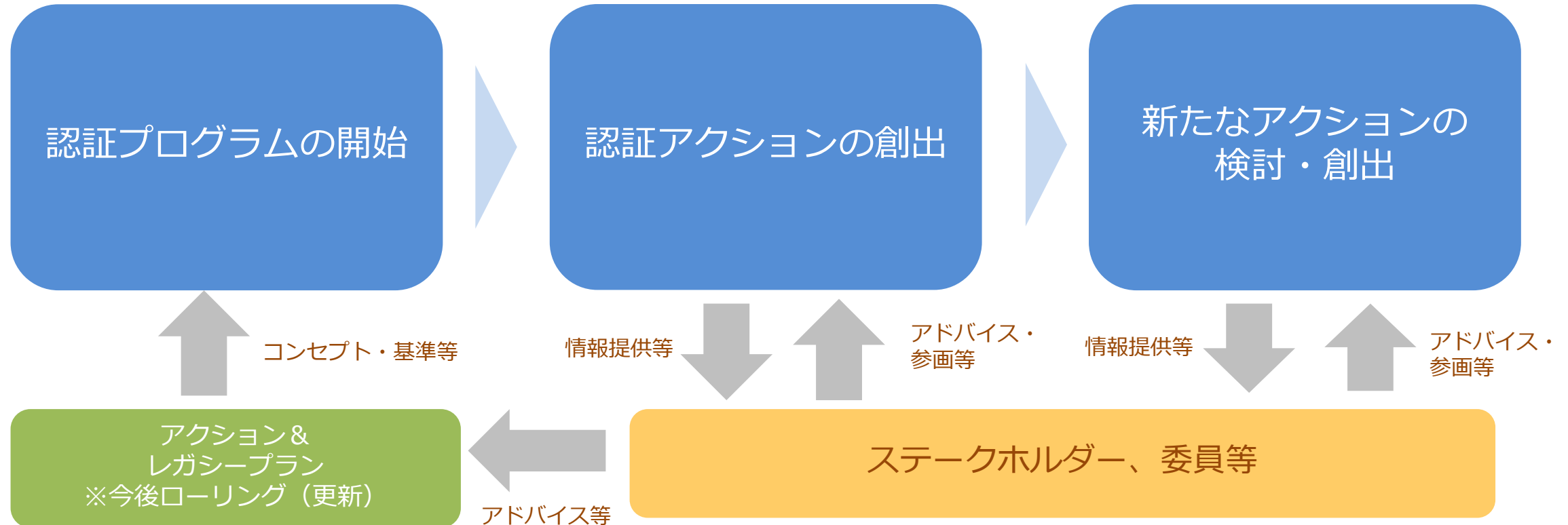
③ 主体的・積極的な参画

- 東京2020大会での活躍の経験を通じて、将来の国際社会や地域社会での活動に、主体的、積極的に参画できる人材が育っている

今後の展開について

1. 基本的な考え方

- 今後は、認証プログラムを活用して、「東京2020参画プログラム（復興・オールジャパン・世界への発信）」（仮称）に参画するアクションを拡大することにより、アクション&レガシープランを具現化していく。
- 委員の皆様には、認証対象となる様々なアクションが、プランのコンセプトを実現し、大会開催機運の醸成や、大会の先のレガシー創出につながるものとなるよう、一層ブラッシュアップする観点からのご助言等をお願いしたい。



今後の展開について

2. 今後想定されるアクション例

■ 2016年下半期以降に予定されているアクションの例

2016年10月以降に、政府、東京都をはじめとする競技開催都市、大会パートナー、ステークホルダー等により実施が予定されている主なアクションの傾向は以下のとおり。

文化

- ◆ 日本や地域の伝統文化・芸能の魅力を発信する取組
 - ・アイヌ民族の文化や郷土芸能を若者や外国人が体験できるワークショップ
 - ・伝統と現代の芸能を融合した市民参加型フェスティバル
- ◆ 次世代育成や様々な分野の融合
 - ・芸術表現の新たな可能性に挑戦する新人芸術家の発掘・育成・支援を目的とした展覧会
 - ・障がい者芸術と最先端テクノロジーの融合
- ◆ 国際交流や国際共同制作の取組
 - ・音楽・美術・デザインのクリエイターとともに演劇やダンスなどの舞台芸術を国際共同制作
 - ・国内外の多種多様なアーティストが集い、屋外等で様々なパフォーマンスを実施
- ◆ あらゆる人が参加・交流し地域を活性化する取組
 - ・アーティストが様々な背景を持った人々との交流を通じて、新たな作品等を生み出すアートプログラム
 - ・地域密着型芸術フェスティバル

教育

- ◆ オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解を広げる取組
 - ・全国の小・中・高校等において児童・生徒が学習読本や映像教材の活用を通して体系的な学習機会
 - ・オリンピック・パラリンピアンによる講演会や競技体験
- ◆ 多様性に関する理解を進める取組
 - ・各学校において障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充
 - ・各学校において地域在住の留学生や大使館、海外の姉妹校との交流
- ◆ 主体的・積極的な参画を促進する取組
 - ・企業や学校において行事・スポーツ大会・児童養護施設等でのボランティア活動
 - ・子どもたち自ら映像制作を通じ創造力やコミュニケーション能力などを養うプログラム



今後の文化・教育委員会の運営について

今後の運営について

1. 委員会の役割

- これまでと同様、アクション&レガシープランを含む、組織委員会の現在の取組についての情報共有の場とするとともに、文化・教育委員の方々の幅広い知見を活かし組織委員会の各種施策（東京2020文化オリンピック、教育プログラム「ようい、ドン！」等）について議論を行う場とするとともに、具体的な検討を行う場として、文化と教育のディスカッショングループを開催させていただきます。
- 今後、大会開会前に集大成として開催する「東京2020フェスティバル（仮称）」について、ご相談させていただきたいと考えております。

2. 具体的な運営方法

- 委員会は、アクション&レガシープランを改訂する7月頃（予定）と、様々なアクションの進捗確認を行う12月頃（予定）の、年2回を基本として開催いたします。
- 次回は、2016年12月頃を予定しております。



小中学生からのポスター募集企画

1. 目的

概要

全国の小中学生から、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたポスターを募集

目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、学校や子どもたちの大会への関心を高め、もって、開催の機運醸成を図ることを目的とする。

2. 詳細①

① 募集期間

- 2016年7月～11月（リオオリンピック・パラリンピック大会開催後）を予定

② 募集内容

- 「リオオリンピック・パラリンピック大会で心に残ったこと」、「東京大会に期待すること」をテーマとした作品を募集

③ 募集対象

- 全国の小学生、中学生、特別支援学校小中学生及び海外日本人学校に在学中の学生
- 小学校は5年生、中学校は2年生を基本的に対象とする

④ 募集方法

- 都道府県教育委員会を通じて各区市町村教育委員会等に依頼するとともに、組織委員会からも各学校に依頼文を送付



昨年度企画の作品

2. 詳細②

- ⑤ 周知方法
 - 各学校から生徒宛に通知
- ⑥ 運営方法
 - 学校毎に50作品につき1作品を選出し、組織委員会に送付
(参考：昨年度は664校からの応募有り)
 - 組織委員会は各学校から送付された作品から、都道府県毎に小学生、中学生の優秀賞等を選出。受賞対象者には参加賞とは異なる恩典を送付し、各学校等にて表彰式を実施
- ⑦ スケジュール (予定)
 - 募集の周知 7月中旬
 - ポスター製作 7月～11月
 - 各学校からの提出 11月上旬
 - 特別賞作品の選出 1月中旬
 - 各学校への恩典等送付 1月下旬



昨年度企画の作品

3. 作品の活用

- 小中学生の作品については以下の活用を想定

I. 組織委員会での活用

- ① 組織委員会ホームページへの掲出
- ② 映像コンテンツの製作
- ③ 各種イベントでの掲示
- ④ 組織委員会内での掲示

II. 自治体等での活用

- ① 自治体主催イベントでの掲示
- ② 自治体広報等での活用
- ③ 学校主催イベントでの掲示

組織委員会HP

小中学生が描いた2020年の私・東京・日本



地域での活用



- 昨年度は東京都以外からも活用の申し出があり、リオ大会後は更に露出が増加すると思われる。

4. 昨年度の実績

①前回の実施要項

- ・対象：全国の小中学生、特別支援学校小中学生及び海外日本人学校に在学中の学生
（小学5年生、中学2年生を対象に実施）
- ・テーマ：東京2020大会開催時の『日本・東京の姿』『自分の姿』
- ・時期：2015年7月～10月16日
- ・その他：教育委員会から各学校に依頼（実施の可否は各学校が判断）

②結果

- ・総数（うち、海外）
応募数：11,493点（416点） 代表作品数：919点（65点） 学校数：664校（48校）
- ・内訳（うち、海外）
<小学校、特別支援学校小学部含む>
応募数：8,951点（283点） 代表作品数：675点（50点） 学校数：500校（36校）
<中学校、特別支援学校中学部含む>
応募数：2,542点（133点） 代表作品数：240点（15点） 学校数：164校（12校）